

愛知東邦大学 シラバス

開講年度 (Year)	2024年度	開講期 (Semester)	後期
授業科目名 (Course name)	教職実践演習 (幼・小)		
担当者 (Instructors)	白井 克尚, 山本 かほる, 渡邊 明宏	配当年次 (Dividend year)	4
単位数 (Credits)	2	必修・選択 (Required / selection)	選択
実務家教員科目 (Pro teacher course)			

■授業の目的と概要 (Course purpose/outline)	
幼稚園及び小学校教員に求められる知識・技術・態度について、在学中に習得した各内容を総合しながら不足部分を補い、さらに充実させるための課題を見出して、教職生活を円滑に開始できる資質能力を身につける。第一に子どもを理解するための視点と子どもと教員との諸関係について再確認する。第二に教科と保育内容に関わる知識と技術を総合的に検討し直す。第三にグループワークを通じて、社会性や対人関係を向上させる。	

■授業形態・授業の方法 (Class form)	
授業形態 (Class form)	演習
授業の方法 (Class method)	教職科目担当者が教科担当者と協働してチームティーチングにより指導に当たる。第1回から第15回まで3名が参画する。授業の中心がグループワークであり、プロジェクト法という集団的取り組みや模擬授業を重視しているので、毎回の各活動に3人が手分けして各専門的立場から入念な個別指導を加える。
当該科目と実務との関係 (Relationship between course and practice)	小学校現場での40年間の実務経験を踏まえ、いま現場で起きている現代的な教育課題やこれから目指すべき授業のあり方をどう捉え解決・実践していくか、研究発表や模擬授業を通して指導する。

■各回のテーマとその内容 (Each theme and its contents)			
回数 (Num)	テーマ (Theme)	内容 (Contents)	メディア区分 (Media)
第1回	課題の明確化	教育実習の記録と評価を中心とした学習を振り返りながら、本授業での課題を見出す。	<input type="checkbox"/>
第2回	プロジェクト法 (1) テーマの設定	教科・生徒指導ないし保育に関するテーマをグループごとに話し合う。	<input type="checkbox"/>
第3回	プロジェクト法 (2) テーマの発表	各グループのテーマを発表する。テーマの探究作業はグループごとに実施。	<input type="checkbox"/>
第4回	子どもの発達段階の検討	各グループで討議し、全体で検討し子ども理解の視点と課題を確認する。	<input type="checkbox"/>
第5回	教材研究の諸課題	各グループで討議し、全体で検討して教材研究の手法と課題を確認する。	<input type="checkbox"/>
第6回	指導計画と指導記録の書き方	書き方を各グループで討議し、全体で検討し手法と課題を確認する。	<input type="checkbox"/>
第7回	模擬授業・保育 (1) 計画	各グループで内容・方法・評価について討議して全体で課題をまとめる。授業計画、保育計画を立案する。	<input type="checkbox"/>
第8回	模擬授業・保育 (2) 実施第1回	各グループ代表者が模擬授業、模擬保育を行い、主に授業、保育の内容・方法について検討する。	<input type="checkbox"/>
第9回	模擬授業・保育 (3) 実施第2回	残りのグループ代表者が模擬授業、模擬保育を行い、主に教師役と子ども役の関係について検討する。	<input type="checkbox"/>
第10回	特別支援が必要な子ども	子どもに関する基礎知識と指導法について習得しつつ、グループで諸事例の検討を行う。	<input type="checkbox"/>
第11回	学校、園の安全	学校安全の基礎知識と指導法 (職員間の連携) について習得しつつ、グループで諸事例の検討を行う。	<input type="checkbox"/>
第12回	保護者・地域との連携	保護者 (子どもとその家庭理解) と地域 (子どもが関わる機関) に関する基礎知識と技法について習得しつつグループで諸事例の検討を行う。	<input type="checkbox"/>
第13回	プロジェクト法 (3) プレゼンテーションの技法	グループの成果を発表する際のプレゼンテーション技法について全体で検討する。	<input type="checkbox"/>

第14回	プロジェクト法(4) 残りのグループのプレゼンテーションと協働性	残りのグループのプレゼンテーション内容についての検討をする。聞か際の際の協働性の重要性やクラス経営について全体で検討する。	<input type="checkbox"/>
第15回	教師の専門性の検討	第2~14回を振り返り、教師の使命や責任を含む資質能力を検討して課題を確認する。	<input type="checkbox"/>

■授業時間外学習(予習・復習)の内容(Preparation/review details)

毎回の授業の最後に一つまたは二つの課題を出し、小レポートにまとめて提出する。その課題解答に関連した事後学習をさらに2時間おこなう。次回のテーマに関するテキストの該当頁を予告し、事前に目を通すことでさらに2時間の事前学習を促す。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

毎回の小レポートについて、次回の冒頭で全体的な傾向と、典型的内容を紹介し、討議の材料にする。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	履修カルテを見直ししながら、教育実習の成果を踏まえ、授業で学んだことも総合しながら、幼稚園や小学校の教育への、使命感や責任感、教育的愛情ある関わり方であったか等を改めて振り返り考察することができる。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	4年間の教職課程の全プロセスで習得した内容について、理論と実践の観点から省察を行うことができる。その際、社会性や対人関係能力に関する事項等の省察を行うことができる。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	グループワークを繰り返しながら、教科・保育内容等の指導力に関する事や幼児・児童理解・学級経営に関する事プロジェクトを、協働で遂行する姿勢を培うことができる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験(in-class exam)	その他(Other)
			60%	40%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

毎回の課題に関する小レポート(60)・プレゼンテーション内容(40)

■テキスト(Textbooks)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	特に使用しない。	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No. (No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	各自必要に応じてこれまで使用した各種のテキストや参考書、参考資料に当たる。	
2	参考書はそのつど紹介し、参考資料は必要に応じて適宜配布する。	
3		
4		
5		